



森と、海と、明日へ。
2025年活動報告書

今年も皆さまとのつながりに感謝いたします。

森と海から、こどもと町の明日をつくるモリウミアスは今年で9年が過ぎ、
こどもの多様な学びと雄勝町の未来に向き合い続けました。

季節の変化を感じた1年でした。温暖化や海水温の上昇。海沿いで、昨年から町の中心部にあった元中学校跡地で畑をしていると感じます。

今年もたくさんのこども達が来てくれました。この地で9年が過ぎましたが、循環する暮らしの体験を通じて「こどもは自然が育てる」実感も感じています。自然が、町が、人がこども達を自然に育てていると。

海水温の上昇は今年も激しく、養殖している貝や魚への影響は続いています。これまで見かけることのなかった魚が水揚げされたりと潮の変化も感じています。この現状をきちんと知るために、東京大学農学部のOne Earth Guardiansプログラムの一環として雄勝の海に関する調査をはじめています。同時にモリウミアスファームの土壌を我々らしくどう改善してゆくかの調査も。

平日の学校や企業、旧祝日には家族やこども達だけで集まる賑やかな時間が繰り広げられる中、日本財団こども第三の居場所に通う、困難な環境で生きるこども達へ今年も年間を通じたオンラインと秋冬の連休に滞在する現地プログラムを実施することができました。体験や旅行する機会が少ないこども達がオンラインを通じて、そして現地雄勝町で自然や食の豊かさ、人との交流を楽しんでいました。

そして、1年間モリウミアスでの暮らしを実践する3名の留学生。今年も遅しく、村のような賑わいを見せるモリウミアスという住処を満喫しています。

雄勝の町中で始まった雄勝ガーデンパーク。その一角、元中学校跡地での農業は2年目となり、この春にワイン用ぶどう1300本を植樹しています。荒地のような土も微生物が増えていることを鬱蒼としげる雑草から感じています。

今年も大変お世話になりありがとうございました。2025年の夏でモリウミアスは10周年。

森と海から、こどもと雄勝町、そして自然の明日をつくる。来年もどうぞ宜しくお願いいたします。

2025年 こどもたちに学びを届ける活動実績

<短期滞在プログラム>

LIVE IN MORIUMIUS（6泊7日 / 7泊8日）5日程

MEET MORIUMIUS（1泊2日/2泊3日）14日程

<長期滞在プログラム>

MORIUMIUS漁村留学 留学生4名（小学生2名、中学生2名）

<地元向けプログラム>

雄勝小・中校外学習 3日程 放課後学習支援 週1回

石巻のこどもたち招待 1日程 仙台市内中学校の校外学習 1日程

<支援プログラム>

児童養護施設や貧困家庭で暮らすこどもたち向け

オンラインプログラム 44回 招待ツアー 8日程

※日本財団「第3の居場所事業」助成事業



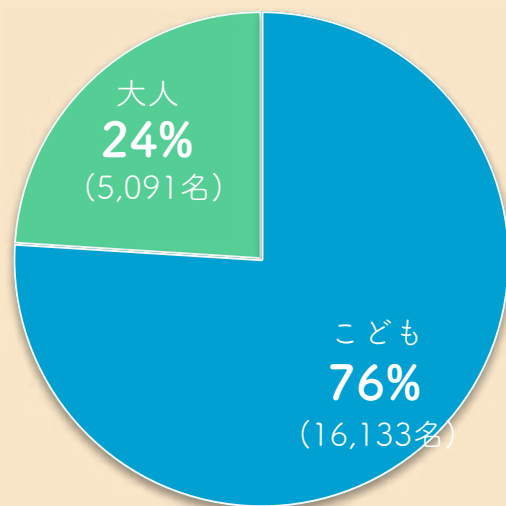
モリウミアス10周年、森と、海と、明日へ。次の10年へ。

森と、海と、明日へ。

宮城県石巻市雄勝町で、こども達のための複合体験施設として始まったモリウミアスが10周年を迎えました。
これからも私たちは、森と海と明日をつなげて、人と自然をつなげてこれまで関わってくださった皆さんをつなげて、
それを次の10年へとつなげていきます。

そこにある未来を健やかにするために、皆さんと一緒にできることを続けていきます。
もっとつなげることで、もっとつながることで、もっと再生できるものがあると信じて。

合言葉は「#つなげていこう」。これからも、応援よろしくお願いいたします。



2015～2025年12月まで約10年の間に
訪れた、滞在した、オンラインや
学びを届けた、こどもと大人の人数
21,224人



モリウミアス10周年、森と、海と、明日へ。次の10年へ。

①クラウドファンディング

次の10年に向けて、老朽化した施設の整備と、貧困家庭のこどもたちを招く2泊3日のプログラムの実施を目指し、クラウドファンディングに挑戦しました。

その呼びかけに、252名の皆さまが温かく応えてくださり、7,172,000円のご支援が寄せられました。寄せられたひとつひとつの応援が、子どもたちの安心できる環境と、新しい体験を支える大きな力になっています。託された想いを胸に、これからも一步一步、歩みを進めてまいります。



第3の居場所招待ツアー

クラファンでご支援いただいた資金を活用し、徳島・栃木・徳之島・熊本の5地域から、こどもたちを2泊3日のプログラムに招待しました。全2日程で、合計30名の子どもたちが参加。森や海で思い思いのチャレンジを楽しみ、ご飯づくりにも元気いっぱい取り組みました。

ウッドデッキ修繕

ウッドデッキはスタッフの手で解体し、石巻の間伐材300枚に、自然にやさしい防腐剤を丁寧に塗りました。施工は地元・大須の大工さんをお願いし、デザインも一新。新しいデッキは、子どもも大人も心地よくくつろげる、温かな空間として生まれ変わりました。

LIVE IN MORIUMIUS 2025

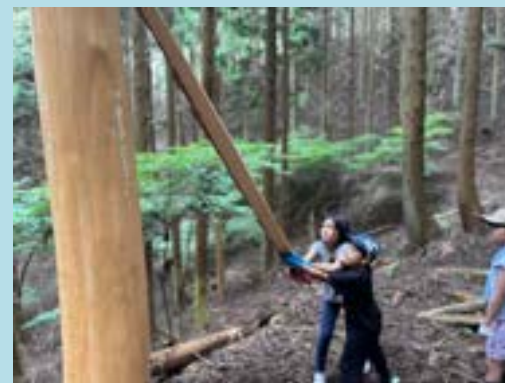
震災を乗り越え、たくましく生きる住民たち。そして全国から集まる多様な人々と共に暮らしながら、自ら考え、行動し、仲間や生き物を大切にする——。森を育み、海とつながる1週間。今年も、夏休みの5週間を無事に終えることができました。

人気のスタンダードコースや、高学年以上を対象にしたチャレンジコースに加えて、今年は新たにスペシャルコースも実施。モリウミアスの10周年を記念し、ラムバサダーの福田浩二シェフをお迎えして、通常より1泊多い7泊8日の特別プログラムを開催。充実した1週間となりました。

多くのガイドやインターンに支えられ、今年もたくさんの子どもたちが参加してくれました。雨や風、そして夏の暑さにも負けず、子どもたちと元気いっぱいモリウミアスでの時間を楽しみました。

参加したこどもの数

115名



<参加した子どもたちの声>

- ・ 自然に包み込まれて、凄く幸せな気持ちになったし、とっても楽しかった！
- ・ お寿司作りやお米炊きができたことが達成感
- ・ 来年はボランティアに参加したい
- ・ 一緒に過ごした仲間に関心な方がいて、全員が優しかった
- ・ モリウミアスに戻りたい！
- ・ 高校生になったらスタッフとしてモリウミに戻る！
- ・ 震災で湾から離れているところでも死者がでるほどの被害があるものなのだと知った
- ・ 自然が沢山で楽しかった

<保護者からの声>

- ・ 初めて、親と離れての宿泊だったので、大丈夫かなと心配しましたが、お友達と一緒にしっかりと楽しんで帰って来れた事がとても誇らしく、嬉しく感じました
- ・ 子どもたちのがんばる姿を通じて、地域の方々に喜んでもらえて保護者としても嬉しかったです
- ・ 「モリウミアスでできることは全部してきた」と言っていて自信がついたようです
- ・ みんなでイベントを作り上げる達成感や喜んでもらうことの嬉しさ、年下の子達がとてもかわいかったこと、やりたい釣りをやるために努力したこと、地元の方との交流の話、などなど、今回は本当に最高の経験だったそうです
- ・ 食べ物について（これはどこで採れたもの？等）やニュースを見ていても関心を持って質問してくるなど。かなり様々な変化が見られて驚きました

▷ 福田浩二さんによるフードプログラム



▷ 地域の方を招いて、一〇周年を祝う一〇年際を開催



MEET MORIUMIUS 2025

モリウミアスと雄勝の自然に出会う短期プログラムMEET MORIUMIUS。森と海がつながる雄勝町の豊かな自然の中で、四季を感じながら循環する暮らしを体験します。自然の中で出会う新しい自分や仲間たちとの交流を通して、こどもたちはたくさんのワクワクとドキドキを胸にチャレンジを重ね、「生きる力」を目覚めさせていきます。

今年も、大人気の「海・森・農」の定番プログラムに加え、特別なスペシャルプログラムを実施。写真家・蓮井幹生さんによるフォトプログラムでは、こどもたちが普段なかなか出会えないスペシャリストと出会い、貴重な体験を共有することができました。

さらに今年は、モリウミアスの新たな拠点「MORIUMIUS MARINE & FOOD」のお披露目会も開催。イタリアンシェフ・山田剛嗣さんをゲストに迎え、こどもたちが主体となって企画・運営を行いました。元の住民の皆さんもご招待し、多くの方々とともに雄勝とモリウミアスのこれからの希望を感じる「ハレの日」を分かち合いました。

参加したこどもの数

87名



▽山田剛嗣シェフとつくりあげた
「MORIUMIUS MARINE & FOOD」のお披露目会

△ 蓮井幹生さんによるフォトプログラム
テーマは【モリウミアス】



MORIUMIUS 漁村留学 2025

「漁村留学」は、2022年4月に「日本財団 渚の交番」の助成を受けて始まった長期滞在型プログラムです。こどもたちが1年をかけてまちと人、森と海がつながる雄勝の自然の中で暮らし、自分たちの手で暮らしをつくり上げていきます。ご飯炊きや料理、風呂焚きなど日々の営みを分担し、決まりごと話し合いを通して決めていきます。2025年度は過去最多の4名での実施となり、関わり合いの輪がさらに広がりました。

今年は月1回の環境再生型キャンプも継続しつつ、森の再生作業を本格化。若手漁師と連携し、藻場環境の観察にも取り組みました。漁村ならではの釣りや大物魚介の水揚げ、魚捌き、魚拓づくりに加え、大繁殖で課題となっている鹿の罨猟にも触れるなど、自然との共存について深く考える機会もありました。他にも、モリウミアスファームのイベント運営にスタッフの一員として参加したり、能登支援のチャリティイベントに取り組んだり、こどもたちの活動はまちづくりへも広がっています。

ありのままに残る自然に、穏やかな海が広がる雄勝町には、未来へ受け継ぎたい営みが息づいています。こどもたちの第二のふるさととして、この地の文化と自然を次世代につなぐため、今後とも温かいご支援を賜れますと幸いです。

2025年度留学生

4名

短期お試し留学

14名



▷今年3月に旅立った3期生、半年間生育を観察したワカメの収穫



▷今年小学生2人、中学生2人（東京・神奈川・福岡から）



▷2025年度留学生保護者経験談シェア



ローカルメディア「森ノオト」
森と海と明日へ。12歳男子、宮城県石巻市モリウミアスでの漁村留学に挑戦中

森と海を再生する環境教育



若手漁師さんの船で
海中と藻場の観察



自然環境へのアクションもまず
は楽しみ、愛着を育むことから



キャンプ場整備を通じて
放置林の植生を再生

まちづくりを通じたプロジェクト学習



早朝からまちの
海鮮まつりのお手伝い



能登支援チャリティイベントで
手作りランチ&クッキーを提供



新施設のお披露目会は
シェフのアシスタント役！

こどもたちの学ぶ土台となる暮らしづくり



自分たちで釣った
アジで絶品唐揚げ



お風呂、ごはんの燃料となる薪
を自分たちで山から運び、割る



集めた落ち葉で手作り
ミミズコンポスト

<留学生の声>

・やる時はやる、がんばる時はがんばってメリハリをよくしたいと思った。焼き芋とかやっている時も合間で楽しみを見つけて遊べた。（4期生/ 中1男子）

・チャリティのお菓子作りをひとりでやるよりみんなに手伝ってもらって、最後みんなで食べるのが楽しかった。かぼちゃプリンもクッキーも最終的に仲間が手伝ってくれてみんなで協力してやるっていうのがいいな。お菓子で分かち合えたからよかったなと思いました。（4期生/ 小5男子）

・ファームでの活動では生み出す、分かち合う機会が多くある。これが自分たちでできるのは愛のおかげだと思う。みんなの愛、それががあるからこういう場ができる。愛があるから生み出すと思う。（4期生/ 中1男子）

<保護者からの声>

・留学中に普段の自分が出せなかったら苦しくなるかな～と少し心配していましたが、3人でコントやったり、歌っている動画を見て、モリウミアスでは素が出せている！留学棟の中は「家」なんだな～と感じたことを思い出しました。（3期生/ 小5男子 母）

・気持ち的にはもう、全員の親になったかのような感じで文化祭も、日常も見てる自分がおります。みんな、それぞれ成長（葛藤も）していて嬉しかったです。（4期生/ 中1男子 父）

<学校・地域からの声>

・モリウミの子たちは、漁業の流れ作業でも的確なポジションに入ってやってくれるのがすごいと思う。普段の暮らしで鍛えられているからこそなのかな。（地元保護者）

・学校の小・中学生に「物事の見方・考え方、そして生き方」という意味で大きな刺激と影響を与えてくれました。教育施設という点でも、“サステナブルに生きる力”を育む学習活動を児童生徒に提供していただき、学校として貴重な学びの機会となっています。（雄勝小中学校・前校長）

地域のこどもたちの学びの機会

プログラム 3 日程

学習支援 週 1 回

① 雄勝小・中学校校外学習・学習支援

町内に唯一残った小中学校にスタッフがコーディネーターとして関わりこどもたちの学びの場をつくっています。中学校では昨年に続き森と海の再生デイキャンプを行い、環境変化を観察、実感する機会をつくりました。週1回の放課後学び教室は、今年から体験活動のスペシャルDAYを組み込んだ形にバージョンアップ。こどもたちの学習習慣の定着に加えて、雄勝ならではの伝統文化に触れました。

▷中学生の課外学習、森と海の再生デイキャンプ



▷雄勝硯ですった墨で書道家のアドバイスももらいながら



▷今年から自習計画のサポートも開始



② 地元石巻からの招待ツアー

毎年開催している地元・石巻からの招待プログラム。今年もカゴメ様にご協賛いただき、9月に1泊2日のプログラムを開催できました。石巻市内のこどもたちに加え、雄勝町のこどもたちも参加し、総勢15名で行いました。プログラムでは、カゴメ様からご寄付いただいたトマトをふんだんに使い、パスタソース作りに挑戦。パスタも一から手作りし、トマトパスタを完成させました。こどもたちはおいしい特製のトマトパスタを味わいながら元気をつけ、暑い夏を乗り越えました。



困難な環境で生きる子どもたちを応援

* 「こども第3の居場所」を利用する子どもたちに向けての
オンラインプログラム&現地滞在型プログラム

オンラインプログラム開催数

44 回

招待ツアー開催数

8 日程

昨年に引き続き、本年も「日本財団こども第3の居場所事業」に助成いただき、昨年より2拠点増の計32拠点、約320人の子どもたちにプログラムを届けました。第3の居場所は、家庭に地域にさまざまな課題を抱える子どもたちが集まる拠点。信頼できる大人や友達と関わりながら、将来の自立に向けて「生き抜く力」を育むことを目的としています。

モリウミナスでは、雄勝の新鮮な魚介を届けて行うオンラインプログラムに加え、子どもたちに実際にモリウミナスに来てもらう現地滞在型プログラムも開催しています。オンラインプログラムでは、最初は包丁の使い方がおぼつかない子どもたちも回を重ねるたびにできることが増え、自信を得ている様子が伺えました。毎月のプログラムが子どもたちのチャレンジの時間となり、調理を習慣として身につけられる機会になったと感じています。また、完成した料理を仲間と共有することで達成感や喜びを感じ、自ら食に対する意識を高めるきっかけにもなりました。

現地滞在型プログラムでは、各拠点からモリウミナスに来て、雄勝の自然、動物、スタッフ・他拠点から来た仲間たちと出会い、オンラインに留まらない経験・学びを持ち帰ってもらいました。さらには、拠点スタッフの方とモリウミナススタッフとの交流も生まれ、モリウミナスにとっても新たな刺激になりました。これからもモリウミナスは、困難な環境で生きる子どもたち、そして支援に携わる大人たちの成長にもつながるプログラムに取り組んでいきます。

▷ 特製のエプロンと鍋の包丁を各拠点さんに送付



▷ 動物のお世話もみんなで



▷ リアルならではの薪割り



プログラムに参加いただいた団体から届いた声

認定特定非営利活動法人さいたまユースサポートネット / あそボックス すみぬま様

プログラムを通して、子ども達の成長を感じている点が2点あります。1つ目は、「とりあえず食べてみる」という経験を積めたことです。食べたことのないものに拒否反応を示すことが多かったのですが、このプログラムを通して「とりあえず食べてみたらおいしかった」という経験がたくさん積みめました。2つ目は、集中力が身に付いたということです。子供たちは学校に馴染めていない子も多く、自席に座り、誰かの話を聞く経験が同年代の子と比べて少ないように感じています。今回のプログラムでは、全員が着席し、話を聞くことができていました。子供たちの大きな成長に職員一同大変感動しました。

認定NPO法人キッズドア / ラーニングラボすみだ様

毎回の活動後、テーマの食材を後日家で料理している子が2名ほどいることが分かりました。「もう1回食べたくなった」「味を変えてみたらおいしいと思ってやってみた」などの話があり、こどもの中で活動が継続している様子がみられています。

(一社) 医食同源みえ / ここふる様

今までは食べられなかったお魚にチャレンジするようになりモリウミアスのプログラム以外でも食べられるかわからなかったり、不安な料理やお菓子も今まではいらんと言っていたのが、少しだけ食べてみてもいい？と聞いてチャレンジするようになりました！

一般社団法人ココヒト / ここくる様

私たちは学校やその他の場よりも、子どもたちに自由に活動できる場面の多い居場所づくりをしてきたつもりであったが、多くの場面で、早々に手出し口出しをしている事がいかに多いか改めて考えさせられた。そのような関わりが、子どもたちの「出来る」を奪ったり、失敗する事を奪う（成長する機会を奪ってしまっている）んだと。MORIUMIUSでのスタッフの方の関わり方、体験を通して振り返る機会となった。待つこと、見守る事、どのような場面のどういう関わりがそうなのか？スタッフ間で話題になる事が増えた。

特定非営利活動法人ふれあい福祉の会山 びこへるぷ / ふれあいハウスりぼん様

オンラインプログラムでの学びが現地プログラムにも繋がって、リアルに包丁を持ってホヤさんの前で魚や野菜を切っている姿に感動しました。魚を捌く事が既に非日常から日常になっているなど子ども達の学びを吸収する力にも驚きました。

新たな学び場づくりへの挑戦 ～まちづくり事業～

東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた、旧雄勝中学校の跡地。地域住民の深い思いが込められたこの特別な場所に、2025年11月「渚の交番 石巻 MORIUMIUS MARINE & FOOD」がオープンしました。ここは、海と食の学びの拠点として誕生した複合施設で、ガーデンキッチン、カフェショップ、フードラボ、ワイナリーという4つの機能を備えています。雄勝の海や森から集めた豊かな食を、楽しむ・体験する・つくる——そんな一連の体験を通じて、食と自然、地域の恵みを全身で感じる事ができる場です。

オープンに先がけて、10月19日には地域住民へのお披露目会、11月12日には日本財団との開所式を開催しました。そして11月15日、カフェショップがグランドオープン。式典では地元・雄勝中学校の生徒による「復興輪太鼓」が披露され、長年更地となっていた場所に、新たな活気と未来への希望が広がりました。会場には多くの地域住民が集まり、胸が熱くなるようなひとときを共に分かち合いました。

この「渚の交番」は、建設の初期段階から農園主の皆さまや、多くのボランティアの手によってつくられてきました。外壁には、野生酵母が棲みつきやすいよう柿渋を塗布し、排水は自然の循環を再生するバイオジオフィルターを通して浄化。さらに、ビオトープづくりや、未来の森を育てるための広葉樹約1,000本の植樹など、すべてが「人の手」で行われています。屋根には、地域を象徴する雄勝石のスレートを用い、自然素材と地域の技術が息づく建物となりました。この場所は、皆でつくり、共に育てていく場所。これからも、地域とともに成長していきます。



△ MARINE&FOODオープン！



△ 広葉樹を1,000本植樹しました！



△ 開所式を執り行いました！

新たな学び場づくりへの挑戦 ～まちづくり事業～

昨年の春、農園主の皆さまと一緒に植樹した約1,300本のワイン用ぶどうは、2025年のいま、雄勝の土地にしっかりと根を張り、力強く成長を続けています。環境にやさしいぶどう栽培への探求が、本格的に始まっています。

農園主の皆さまとは、植樹ツアーでの苗の地植えをはじめ、新拠点周辺でのバイオジオフィルターやビオトープづくり、ワインのラベル貼りまで、多彩な場づくりに取り組んできました。特に植樹ツアーでは、子どもたちの元気な声が畑に響き渡り、まさに未来への希望を植えるような時間となりました。3月には、東京で「農園主ギャザリング」を開催し、2023年ヴィンテージの試飲を通して、これまでの歩みや、これからの未来に向けた想いを参加者の皆さまと共有しました。

そして2025年、いよいよ本格的な醸造に向けた準備が整いました。MORIUMIUS FARMとして初めて、単独でのぶどう収穫を実施。遠くヨーロッパからはプレス機や発酵タンクなどの醸造機材も届き、醸造担当のムロジョンを中心に、2026年夏からの自社醸造に向けて準備が進んでいます。

また、この新しいワインの物語を共に紡ぐ仲間として、山梨県のぶどう畑で暮らしていた保護犬・クロが新たに家族に加わりました。たくさんの人と想いがつながり、いよいよ「ワインの物語」が動き出した一年となりました。



△ 初となるぶどう単独収穫！



△ ヨーロッパから醸造機材が到着



△ 東京大学との共同研究スタート！



△ クロちゃんとピノ